

3

次の文章は、「子どもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説です。これを読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

(堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』による。)

(堀  
本  
裕  
樹  
・

田  
丸  
雅  
智  
・

『俳句でつくる小説工房』による。)

(堀  
本  
裕  
樹  
・

田  
丸  
雅  
智  
・

『俳句でつくる小説工房』による。)

(堀  
本  
裕  
樹  
・

田  
丸  
雅  
智  
・

『俳句でつくる小説工房』による。)

(堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』による。)

(注1) 対峙<sup>たいじ</sup>＝向き合って立つこと。にらみ合って対立すること。  
(注2) 想像力たるや＝想像力といつたら。

(堀本裕樹・田丸雅智『俳句でつくる小説工房』による。)

――線部①「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書きなさい（漢字、ひらがなのどちらでもよい。）。また、それと同じ表現の技法が用いられているものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 線部ア 「ただ、と、おれは思う。」
- 2 線部イ 「ブルーシートを地面に広げ、真ん中に立てた大きなパラソルの下で涼む人。」
- 3 線部ウ 「猫のように素早く手を出し」
- 4 線部エ 「もつともっと前の話だと説明する。」

――線部②「途方に暮れた」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 どうしてよいか分からなくなつた
- 2 同じことを繰り返していた
- 3 なつかしくなつた
- 4 夜になつたことに気付いた

三 次のAからCまでの「おれ」の行動や心情を、話の展開に沿って順番に並べ替えるとどのようになりますか。A、B、Cを適切に並べ替えて書きなさい。

- A 昔のことについて、母と電話で押し問答をする。
- B 息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙ななつかしさにとらわれる。
- C 息子への申し訳なさを募らせつつ、目の前の息子を頼もしく思う。

四 一線部③「なるほど」とあります、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、一本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使つてもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。